

2023 年 3 月 1 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

妊婦の災害への準備行動に影響を及ぼす要因

Factors Influencing Pregnant Women's
Disaster Preparedness Behavior.

21MW014

布施しおり

要旨

1. 目的

本研究の目的は、妊婦の災害への準備行動に影響を及ぼす要因を明らかにすることである。

2. 方法

本研究のデザインは、半構造化面接を用いた質的記述的研究である。条件を満たす初産婦5名を対象とした。面接は妊婦健診後に1時間以内の対面で実施した。分析は録音したインタビュー内容を逐語録に起こし、災害の準備行動に影響を及ぼす要因の語りを抽出し、コード化した。その後、サブカテゴリを抽出し、そこからカテゴリの抽出を行った。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会（倫理審査番号 22-A062）の承認を得て実施した。

3. 結果

研究協力施設にて、条件を満たす初産婦5名にインタビューを実施した。インタビューガイドは「災害に対する認識」「避難準備の実態」「準備のきっかけ」の3つの柱で構成した。「災害に対する認識」では、【身の危険を感じた時に意識が向く】【妊娠しても災害に対する危機意識は変化しない】【避難行動は迷うが、避難所へ行くのは避けたい】の3つのカテゴリが抽出され、妊娠をしても災害を他人事として捉えていることがわかった。「避難準備の実態」では、【わからないが調べない】【情報は配布された時に一見する】【避難準備をしても限定的】【目に見えない準備は考えが及びにくい】【妊娠に注目するため災害準備まで気が回らない】の5つのカテゴリが抽出され、自ら避難準備の情報収集をすることが難しいことがわかった。「準備のきっかけ」では【医療者からアプローチをしてほしい】【きっかけを作ってほしい】の2つのカテゴリが抽出され、避難準備をするにあたって医療者からのきっかけ提供を望んでいることがわかった。

4. 結論

研究結果より、妊婦は、普段の生活の中で妊娠に目が行きやすく、災害を考えるきっかけがない傾向があることや、一般的な人と同様に、災害を軽視してしまう認知バイアスが働くことなどが避難準備に影響を及ぼしていると考えられた。また、妊娠をしても災害に対する認識は変化していないこと、医療者や第三者からのアプローチを望んでおり避難準備が進んでいないこと、避難を考えた際に、妊婦特有の不安があったことなどから災害時には妊婦が要配慮者になることを知らない可能性があることが示唆された。